

1 経営理念

<input type="checkbox"/> 学校教育目標 確かな学力を持ち、夢や目標に向けて能動的に活動する生徒の育成
<input type="checkbox"/> めざす学校像 ○信頼される学校 ①安心・安全な学校（安心して楽しく生活できる） ②確かな学力を身に付けさせる学校（学力の向上） ③夢をかなえる学校（自己の成長・良さが実感でき、夢と自信が育つ） ④美しい学校（環境・礼節・一生懸命が美しい） ⑤地域に貢献する学校（地域と連携して地域の活性化に貢献）

2 経営目標・評価指標・評価等 【評定 S：100%，A：99～90%，B：89～70%，C：69～50%，D：49～0%】

	中期経営目標	短期経営目 (達成目標)	評価指標	評価	成果（○）・課題（▼）等	今後の取組・改善策
				最終		
確かな学力	○基礎的な知識・技能の定着を図り、思考力・表現力や自己学習力を身に付けた生徒を育てる。	○各種学力検査で、国または県平均を上回る。 ・平均以上、または昨年以上	○生徒全員が国や県の平均以上、又は昨年以上の正答率。	B	○学校平均は県、国の平均を延べ19教科のうち17教科が上回った。 ▼活用力を問う問題に課題がある。 ▼30%未満の正答率の生徒が前年度より増えている。	・少人数を活かした細かな指導を行う。 ・活用力を高める学習活動を取り入れる等、授業改善を行う。 ・放課後などを利用し、個別指導を継続して行う。 ・ドリル学習を日常的に取り入れる。
		○自分の考えを筋道立てて表現する（書く・話す）ことができる。	○70%以上の生徒が肯定的に自己評価している。	B	▼約5割の生徒が否定的な回答をしている。かつ、中間評価から12.6ポイント下がった。 ▼論理的思考を促す学習活動が不十分な状況がある。	・ノート作成の好事例を掲示する。 ・ノートにしっかりと自分の考えを書かせる取組を継続し、授業の中で表現する場面を設定する。 ・「筋道を立てて表現する」の具体例を各教科等で示し、繰り返し指導する。 ・発問の工夫やノートを活用した授業展開など論理的思考を促す学習活動（授業構成）について研修し、授業改善を図る。
		○家庭学習習慣を定着させる。 ・2時間以上家庭学習を行う。	○生徒全員が2時間以上家庭学習を行っている。	D	▼中間評価時に「2時間以上」と回答した生徒のうち、10名が「2時間未満」の学習時間に移行した。 ▼学習時間が2時間未満の生徒が19名おり、その内4名が1時間未満だった。 ▼宿題の未提出者も減少していない。	・生活ノートを利用し、自主勉強を充実させるように指導する。 ・復習や予習など、教科の学習と関連付けた家庭での学習課題を設定する。 ・宿題の量を見直す。 ・細かな家庭連携を行い、取組や子供の様子を伝える。
豊かな心	○礼儀や規範意識を身につけ、場に応じた行動のできる自律した生徒を育てる。	○場に応じた挨拶ができる。 ・レベル5の挨拶	○生徒全員が、式、朝会、授業、来客への対応等の場で、レベル5の挨拶ができています。	B	○中間評価より9.52ポイント上昇した。「授業中」は2.66ポイント、「式、集会」は16.2ポイント、「来客」は9.61ポイント上昇し、意識の向上が見られる。 ▼「授業中」の肯定的評価が55.56%と低く、授業中の挨拶に課題がある。	・「場に応じた挨拶」や「レベル5の挨拶」の達成基準を示す。 ・指導レベルを統一し、授業時を中心にやりきらせる指導を徹底する。 ・生徒同士でも挨拶ができるよう、学校全体の活動や行事でも意識させる。
		○整理整頓や掃除がきれいにできる。	○生徒全員が掃除や身の回りの整理整頓ができています。	B	○前年同期比3.5ポイント上昇した。 ○「掃除」は中間評価から6.24ポイント上昇し、生徒会の呼びかけなどの効果も表れている。 ▼「整理整頓」は中間評価から10.4ポイント下がっている。特に、教室、体育館の個人ロッカーが整理されておらず、一人一人の意識が低い。	・個別指導を続ける。 ・無言での掃除ができるようレベルアップを図る。 ・個人ロッカーの整理を意識させる。 ・呼びかけやチェックなど引き続き生徒会活動と連動して取組む。
		○ルールを守って生活できる。 ・校則、時間	○生徒全員が校則と時間を守っている。	A	○「校則」、「時間」とも94.0%の肯定的評価である。 ▼「校則」は中間評価から5.56%下がり、ルールや時間の遵守の意識を改めて持たせることが必要である。	・時間を意識した行動ができるよう、正確な時間を伝えるなど、声をかける。 ・2分前には授業準備を終えて、1分前には自分の席に着くことを徹底する。 ・指導者が2分前には教室にいる。
健やかな体	○自己肯定感を高め、思いやりの心をもった生徒を育てる。	○生徒が「自分には良いところがある」「周りから認められている」と感じている。	○生徒全員が自分のことを肯定的に自己評価している。	C	○「自分に良いところがある」は、中間評価から1.84%（2名）上昇した。 ▼「周りから認められている」は中間評価から26.5%（8名）下がっている。 ▼学級の中で達成感や自信を持たせる取組の継続が必要である。	・マイナス評価をした生徒に対して、肯定的な評価の声掛けをする。 ・集団活動の場面で、生徒同士の認め合いや、肯定的評価をしよう場面を増やす。 ・ボランティアカード・達人ボード等の導入を検討する。 ・教師が積極的に肯定的な評価をする。
		○基礎体力を向上させ活力ある生徒を育てる。	○基本的な生活習慣が身についている。 ・給食、朝ごはんの定着	○生徒全員が朝食をとり、給食を残さず食べている。	A	○「給食」は、100%に改善された。 ▼「朝食」は、毎日食べていない生徒が中間評価時の2名から4名に増加した。朝食をとってない個人への対応が必である。 ▼食に対する生徒の意識を高める取組を継続する。 ▼保護者とも連携し100%達成を目指す。
健やかな体		○ワンステップタイムを充実させる。	○生徒全員が体力が向上したと感じている。	A	▼中間評価時から4.0%下がった。 ▼11月からは、放課後実施となり、課題提出の取組と重なり、参加できない生徒もいる。家庭学習をやりきらせることも必要である。 ▼今後も全員が参加できるよう取り組む。	・委員会で担当者を明確にして、楽しみながら基礎体力が向上する内容を設定し、継続して取り組む。 ・スポーツテストの結果を活用した運動内容を取り入れる。 ・部活動との関係も考慮し、実施時間等検討する。

（裏面に続く）

信頼される学校	○学んでよかったと思える学校にする。	○生徒が授業や学校生活に満足している。	○生徒全員が「授業はわかる」「学校が楽しい」と肯定的に評価している。	A	○全教科で、統一した授業モデルに基づいた、わかりやすい授業づくりを継続する。 ▼「楽しい」に否定的評価をする生徒の理由等を把握した対応が必要である。	<ul style="list-style-type: none"> 授業研究の充実を図る。 つきたい力（めあて）を明確にする。 自己存在感の持てる活動を行事以外の日常の中にも設定する。 個人面談を定期的に行う。
		○保護者が本校教育に満足している。 ・安心と満足	○保護者全員が、「安心」「満足」と肯定的に評価している。	B	「安心して通わせている」対中間評価比-2.98ポイント、対前年同期比-9.68ポイント、「満足している」対中間評価比-6.0ポイント、対前年同期比-7.59ポイント ▼中間評価及び前年同期と比較し、評価が下がった。 ▼生徒間の言葉遣いや態度などから互いに嫌な思いをしているのではないかと、不安に感じている保護者がいる。 ▼学力に不安を感じている保護者がいる。	<ul style="list-style-type: none"> 引続き通信やHP等で情報提供する。 教職員が生徒の様子について情報共有を行い、学年会を中心に組織的に対応し、保護者連携を細やかに行う。 ドリル学習、補充学習等による基礎学力へのアプローチとともに家庭と連携して家庭学習の定着を図り、学力向上につなげる。 行事等へのアンケートや学級懇談、期末懇談等で把握した意見や要望等を、今後の取組にいかす。